

International Conference on Radioecology and Environmental Radioactivity 印象記

北山 響
Kitayama Kyo

昨年の9月7～12日にかけて、International Conference on Radioecology and Environmental Radioactivity (ICRER) がスペインのバルセロナで開催された。ICRER は、環境放射能やそれに関連する規制に関する最新の成果について、検証、議論し、人体及び環境の放射線防護の更なる発展に貢献することを目的としている。2008年6月にノルウェーで第1回目が開催され、その後3年ごとに開催されており、第2回は2011年6月にカナダで行われ、今回で3回目である。主催は、ノルウェー放射線防護機関 (Norwegian Radiation Protection Authority, NRPA) 及びフランス放射線防護・原子力安全研究所 (Institut de radioprotection et de sûreté nucléaire, IRSN)、共催が WHO (世界保健機関) であり、ほか9つの組織が運営に加わっている。46か国から約430名が参加し、日本からの参加者は約40名であった。

会場は、バルセロナ市街地から離れたレイ・ファン・カルロス I 世記念ホテルに隣接した国際会議場で行われた (写真 1)。開会の基調講演と全体講演のほか、11セッションで、97件の口頭発表、124件の口頭ポスター発表、202件のポスター発表が行われた。また、会議中日の9月10、11日には COMET (COordination and iMplementation of a pan-Europe instrumenT for radioecology) と STAR NoE (STrategy for Allied Radioecology Network of Excellence) による放射線影響評価モデル ERICA Tool の技術講習会が行われた。会議の開催前、期間中に幾つかの



写真 1 ICRER 会場のレイ・ファン・カルロス I 世記念ホテル国際会議場

関連国際会議が行われていた。これらの会議についても以下で報告する。

全体講演

開会式は口頭発表2会場のうちの1つで行われた。開会のあいさつ、学会賞受賞者による講演の後、招待者による基調講演が行われた。基調講演では、原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation, UNSCEAR) や IAEA、アメリカ環境保護庁 (Environmental Protection Agency, EPA) 等による環境中での放射線被ばく、放射性物質管理に関する近年の活動が報告された。

ほかの全体講演でも環境放射能に対する組織的な取り組み、活動に関する発表の他、対象物質を絞った総括的な環境中の動態に関する発表

があった。特に福島第一原子力発電所（以下、福島原発）事故に関連した環境放射能の発表が目立った。

一般発表

会場での研究発表は、口頭発表のほか、発表時間の短い多くの口頭ポスターの発表があった。ポスター発表は、口頭発表会場前のホールで行われた。

セッションのテーマは、影響評価、危険管理、自然起源放射性物質、廃棄物管理、化学特性と環境移行、環境保護、生態影響、福島原発事故、モニタリング等であった。福島原発事故に関連する研究発表は多く、福島セッション以外でも幾つか見られた。福島原発事故から3年余りが経過した今でも、その経過状況について注目されていることが伺える。しかし、福島セッションの発表者の多くは日本の研究者であり、逆にほかのセッションでの日本からの発表の割合は少なかった。外国の研究者が、福島原発事故に関する研究に関心があっても、実際に研究に着手できていないという状況が伺えた。

受賞

ICRERでは、環境放射能研究の発展と普及に貢献した者に与えられる International Union of Radioecology (IUR) 創設者の名を冠した IUR Vernadsky Award と、若手研究者に与えられる Young Investigator's Award、選ばれたポスター発表者に与えられる Alliance Poster Award の受賞があった。Young Investigator's Award は、審査用の論文によって選考され、今回は3名が選ばれ、筆者も大気中の放射性 Cs に関する研究で、そのうちの1人として受賞させていただいた。Alliance Poster Award も若手の研究者に与えられた。

同時開催の会議

ICRER の受付日に当たる9月7日には、同時開催の国際ワークショップ、Ring of Five Workshop 及び Nuclear Legacy Workshop が行われた。Ring of Five は、大気中人工放射性核種の濃度の情報共有を目的としたネットワークであり、今回初めて行われた国際会議である。会議では、18件の口頭発表と8つのポスター発表があり、筆者もこの会議に参加した。会議を通して、低濃度であるためにモニタリングが困難で、データも限られてしまう大気中の放射性核種濃度においては、このような世界規模なネットワークによるデータの共有が大事であることが感じられた。Nuclear Legacy Workshop は、核廃棄物管理の向上のための情報交換、議論を行うことを主たる目的としており、結論は ICRER の場においても議論される。

9月10日の研究発表終了後には、IAEA によるパネルディスカッション形式の会議 Radiological Protection of the Environment が行われた。この会議では、IAEA 等の組織の代表がパネラーとして、放射性物質の法規制と研究の関わり合いに関する3つの質問について、コメントを述べる形で行われた。

また、環境放射能ネットワークの世界規模の調和を推進することを目的とした FORUM が、会議期間中に IUR により立ち上げられた。FORUM に関する発表は、全体講演の中で行われた。

このように環境放射能に関する組織の情報・意見交換、会合としての意味合いの強い国際会議であったと感じた。

(福島大学 うつくしまふくしま
未来支援センター)